

農業技術

プリズム

長崎県は全国2位のジャガイモ産地で、2017年には3850畝で栽培されています。県が育成し、12年に品種登録された「さんじゅう丸」は、主力品種である「ニシユタカ」並みの収量性があり、ジャガイモシストセンチュウ抵抗性で、そうか病や青枯病にもやや強い特徴があります。特に、そうか病に強いことから、順調に作付面積が伸びています。

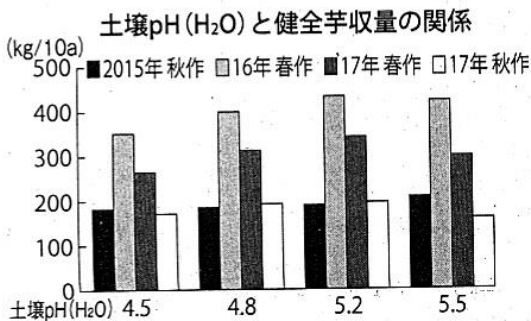
一方、県内産地では、そうか病対策のため土壌pHを4.8以下に管理している圃場（ほじょう）が大半を占め、中にはpH4以下の強酸性の圃場も見られます。しかし、極端な酸性土壌では、そうか病の発病は抑え

られても健全に生育できず、収量や品質面で問題が生じます。そこで「さんじゅう丸」に最適な土壌pHを解明するため、

ジャガイモ「さんじゅう丸」

石灰資材の施用は pH4.8~5.2目標

淡色黒ボク土壌と赤色土を客土した圃場で、植え付け前の目標土壌pHを4.5、4.8、5.2、5.5として試験を行いました。その結果、健全芋の収



量は、pH4.5で低い傾向となりました(図)。ただしpH5.5以上では、そうか病が多発して健全芋の収量が減少する場合があります。石灰資材の施用はpH4.8~5.2を目標に施用することが肝要です。

(県農林技術開発センター 産園芸研究部門馬鈴薯(ばれいしょ)研究室主任研究員 永尾 亜珠沙)